

町田市民病院

vol.35
2017年 秋号

クォーターリー



ホームページを更新中！

2017年4月から、ホームページの大幅な更新を行っています。

今後も引き続き、みなさんに伝わりやすいホームページを目指して更新していきます。

トピックス

- 診療科紹介：外科
- 市民公開講座を開催しました
- 医療安全への取り組み
- 楽笑レシピ

<http://machida-city-hospital-tokyo.jp/>

診療科紹介

外科

「当たり前の病気を当たり前に治す」をモットーに、日常頻繁に遭遇する疾患に対して標準的治療を安全に行い、患者さんのQOL（生活の質）の向上を意識した診療をしています。

●外科とは

外科は幅広い疾患を扱っているため、当院では消化器外科医、呼吸器外科医、乳腺外科医、小児外科医を配置し、専門性の高い治療を行っています。病気の進行度や患者さんの状態によって、開腹手術のほか、口や肛門から内視鏡や手術器具を挿入して行う内視鏡手術、お腹に小さな穴を開けて内視鏡を挿入して行う腹腔鏡手術、化学療法など、さまざまな治療を行っています。また、疾患の内容によっては大学病院と連携をとりながら、より高度な医療を提供できる体制をとっています。

●連携体制について

外科治療の質を向上させるため、内科医、麻酔科医、病理医、放射線科医、看護師等が参加する合同カンファレンスを毎週行い、手術の方針を確認・決定しています。さらに、最適な治療を選択するために手術や化学療法などを組み合わせた集学的治療や、他職種とのチーム医療の実践により、患者さんのQOLの向上を図っています。

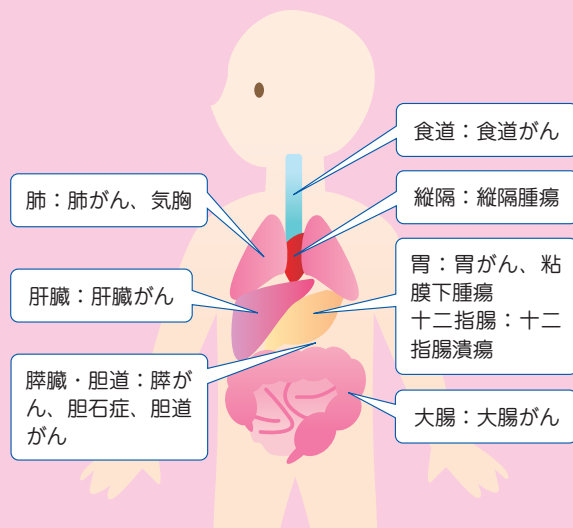
また地域の診療所の先生方とも情報交換・交

流をより一層行い連携を深め地域のみなさんの健康を守るよう、努めてまいります。

●紹介状をお持ちください。

医療機能の分担と連携のため、当院を受診される際は、かかりつけ医からの紹介状をお持ちのうえ、お越しくださいますようお願いいたします。

<外科が担当する主な臓器と疾患>



※その他、乳腺・甲状腺（乳がんなど）、肛門疾患、小児の外科的疾患も治療しています。



合同カンファレンスの様子

Pick up!

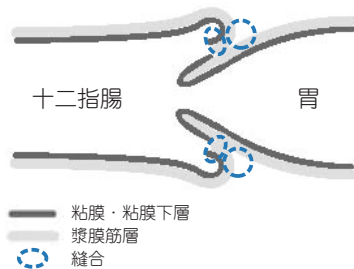
消化器外科

消化器外科とは、食道・胃・腸・肝臓・胆のう・膵臓など消化器系臓器の疾患を対象として、診断・治療を行う外科診療科です。当院で多い疾患としては、大腸がんや胆石症（結石）、胃がん、虫垂炎、鼠径ヘルニアなどがあります。消化器外科では、根治性と安全性を担保しながら、負担の少ない低侵襲治療と術後QOLの向上を目的として、患者さんの状態等に応じて腹腔鏡手術や適切な再建法を行っています。

<胃の切除手術において幽門再建術の選択が可能になりました>

幽門再建術

胃の残った部分（残胃）と十二指腸をつなぐ際、残胃粘膜・粘膜下層を外翻し2層で縫合することで、「幽門」と同様の働きをする部分をつくる。



胃の出口部分には、十二指腸への食物の通過を調節する働きをする「幽門」という部分があります。胃がん等により、この幽門部分を切除した場合、食べたものが急速に十二指腸に出ていくことによるダンピング症状（低血糖、めまい、動悸、腹痛、全身倦怠感など）や、十二指腸液が胃に逆流することによる残胃炎、その他体重減少などの症状が表れることがあります。幽門の再建術を行うと、これらの症状が軽減でき、術後のQOLの改善が期待できます。

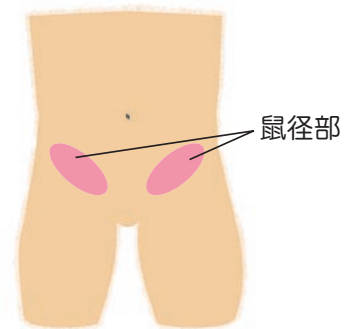
Pick up!

小児外科

小児外科は、生まれて数時間の赤ちゃんから15歳（中学生）までのこどもの腹部疾患、胸部疾患（心臓手術は除く）から泌尿器疾患まで幅広く実施しています。外来は完全予約制で毎週水曜日、第2・4金曜日に行っており、手術は基本的に毎週水曜日に行っています。

<鼠径ヘルニア>

小児外科で最も多い疾患は、足のつけ根の鼠径部と言われる部分に腸などの臓器が飛び出すことで腫れが生じる鼠径ヘルニアです。小児の鼠径ヘルニアは先天的な要因で発症し、痛みを伴わないこともあります。自然に治ることはありません。長期間放置すると飛び出した臓器が締め付けられ、血流が悪くなり、壊死を起こすことがあるため、早めの手術が必要です。手術は下腹部を2cmほど切開して行う方法もありますが、近年では、おへそから5mm程度のカメラ（内視鏡）を入れ、お腹に2mm程度の穴をあけて器具を入れて手術を行う腹腔鏡による手術が主流となっています。従来の開腹手術では、片側の手術後、反対側に鼠径ヘルニアが出現する確率が5～10%程度と言われていたますが、腹腔鏡では両側を同時に観察・治療ができるというメリットがあります。



※外科が対象とする主な疾患についての詳細（症状や検査内容、治療方法など）は、当院ホームページ・外科のページにも掲載しております。そちらもぜひご覧ください。（<http://machida-city-hospital-tokyo.jp/department/surgery/>）

2017年度 第1回市民公開講座を開催しました

2017年7月15日開催

「こどもの救急 良いタイミングで救急受診をするために」

小児科医師：藤原・山口・横井・大谷



藤原



山口



横井



大谷

こどもは、急に体調を崩すことが多くあります。たとえば発熱やけいれん、吐き気、咳、腹痛、便秘、下痢、皮膚のぶつぶつ、誤飲、鼻血など、気になる症状があらわれたとき、救急車を呼ぶべきか、急患診療所を受診するべきか、かかりつけ医の診療開始時間を待って受診するべきか、迷うことも多いと思います。

そんな時は、小児救急でんわ相談『#8000』（東京都は平日18時～23時、休日9時～23時）をご利用ください。小児科医師や看護師がお子さんの症状に応じた適切な対処の仕方や受診する病院等のアドバイスをしてくれます。

★小児救急でんわ相談【#8000】の使い方



出典：厚生労働省ホームページ
<http://www.mhlw.go.jp/topics/2006/10/tp1010-3.html>



ホームケアのポイント

発熱は最も頻度の高いお子さんの症状です。発熱の主な原因は風邪（ウイルス）と細菌（ばい菌）による感染症です。熱は、体がこれらの原因物質と戦うことであらわれる症状のひとつです。

お子さんの症状に気づくため、まずはお子さんの平熱を知っておくことが大切です。元気な時に1日4回（朝、昼、夕、眠前）測ってみて

ください。その体温より1度以上高ければ、「熱がある、熱が出た」と考えましょう。

熱が出たら、水分を十分にとり、時間を決めて熱を測りましょう。水分補給の際は、牛乳やコーンスープ、果汁そのもの、人工甘味料（アスパルテームやキシリトール）の多く入ったスポーツドリンクは避けてください。乳児の場合、入院を要するような重症の脱水でなければ、母乳や乳児用のミルクでも構いません。水分補給のポイントは、「少しずつ」「回数多めに」です。

解熱薬の使い方

風邪をひいたときは解熱薬をうまく使うことが重要です。熱はウイルスの活動を抑える働きがありますが、熱のために睡眠がとれなかったり水分摂取ができなかったりすると、免疫力が低下してしまい、かえって治りが悪くなってしまいます。熱のために寝つけない、水分がとれないなどの場合は解熱薬を使ってあげるとよいでしょう。ただし、「熱が高くても脳に後遺症を残すことはない」、「熱が高いほど重症な病気というわけではない」、ということは知っておいてください。

熱は夜間に高くなる傾向があり、熱のため機

嫌が悪くなったり息が荒くなったりして、不安になると思います。お子さんがつらそうなときは、首や脇、股などを冷やしてあげてください。睡眠・水分がともにとれていればあわてて病院を受診する必要はありません。経過をみて日中にかかりつけ医を受診して下さい。生後3ヶ月未満の場合や、薄着にしたり体を冷やしても「元気がなくぐったりしている」「機嫌が悪く泣き続ける」「水分をまったくとらない」ときは急患診療所を含め、早めの受診をお勧めします。



熱性けいれんとは？

熱性けいれんは主に生後6ヶ月から5歳までの乳幼児期に起こる、通常38℃以上の発熱に伴う発作性疾患です。

けいれんが起こった時はどうすればよいのでしょうか？まずはあわてないことが大切です。落ち着いて安全な場所へ移します。次に頭部を低くして顔を横に向けます（分泌物や吐物などによる窒息を防ぐため）。口の中には決して物を入れないでください。口の中を傷つけたり窒息したりするおそれがあります。なにより大事な

ことは、けいれんが治まるまで必ずそばにすることです。

医療機関へ受診が必要な症状は、初めてのけいれん、けいれんが治まっても意識がはっきりしない時、部分発作、発熱とけいれんに加え麻痺などを伴う時です。けいれんが5分以上続く時や、短い間隔で繰り返しけいれんが起こりこの間意識がはっきりしない時は救急車を呼びましょう。

ほとんどの場合、医療機関来院時にはけいれんが治まっているので、けいれんを起こした時の様子（けいれんの続いた時間や手足の動きなど）を話していただくと医師は助かります。

●救急の適正受診にご協力をお願いします。

救急車で当院に搬送されてくる患者さんの症状のうち、その重症度から考え、実は救急車での受診ではなくタクシーや自家用車で受診すべき場合が多くあります。

お子さんが急に調子が悪くなった時、小児救急でんわ相談（#8000）の上手な活用や、かかりつけ医の先生方との良好な連携により、不要不急の受診を避けることができるでしょう。救

急車や医療機関も限りある資源です。資源の有効活用にご協力をお願いします。





2017年度 第2回市民公開講座 夏休み子ども病院見学会を開催しました



8月6日(日)、町田市在住の小学4～6年生を対象に市民病院の各部門の仕事を体験したり、施設を見学したりする「夏休み子ども病院見学会」を開催しました。また、今回は同行したご家族向けに市民病院の外科で扱う病気の予防法や最新の治療法などの講演会も併せて開催しました。

参加したお子さんからは、「手術室でピーズを動かすのが楽しかった」、「もし、歩いていた時に心停止になっている人を見つけたら、心臓マッサージをして助けてあげたいと思う」「今度はレントゲンもってみたい」などの声をいただきました。

〈各部門での見学・体験内容〉

手術室：電気メスでの鶏肉切り体験や内視鏡でのピーズつかみ競争など

看護部：心肺蘇生トレーニングキットを用いた心肺蘇生学習

リハビリテーション科：治療時に使用する材料を用いた指輪づくりやリハビリ関連クイズ

臨床検査科：心電図や肺活量検査体験

栄養科：2種類（かんてん・ゼラチン）の手づくりゼリーの食べ比べとクイズ



手術室



リハビリテーション科

町田市病院事業運営評価委員会を開催しました

2017年度第1回町田市病院事業運営評価委員会を2017年7月19日(水)に開催し、中期経営計画(2012～2016年度)の取組結果や2016年度の決算見込、今年度から新たに開始された中期経営計画の中で地域医療支援病院を目指していくこと等について説明しました。

委員からは「市民病院が二次医療（入院）機関としての役割を果たすため、軽症患者については診療所等で診てもらうよう、医師会等と協力しながら広報する必要がある」「医師会としては連携

医制度の構築に賛成であり、より効果的な体制を作れるよう相談したい」「呼吸器内科医は非常に重要な分野であるため、ぜひ確保してほしい」等のご意見・ご提案をいただきました。

委員の皆さん

木藤一郎（旭町二丁目リフレッシュクラブ会長・欠席）、渋谷明隆（学校法人北里研究所理事）、根本勝（公募委員）、林泉彦（町田市医師会会長）、水町浩之（経営コンサルタント）、山内芳（税理士）
50音順・敬称略



医療安全への取り組み【医療安全対策室】

質の高い安全な医療体制を目指し、病院全体で医療事故防止や安全推進活動に取り組んでいます。

医療安全対策室やリスクマネージャーを中心に安全教育を行っています。

より安全な医療体制を整えるため、2004年に医療安全対策室を設置しました。病院は医師や看護師のほか、薬剤師などの医療技術職、事務職など多くの職種が協力して医療を提供しています。安全を確保するためには、病院全体が一つになって取り組む必要があります。そのため、各部門にリスクマネージャー（医療に伴う危険管理を行う者）を配置し、医療安全に関する職員の意識啓発や知識の向上を進めるとともに、対策・改善・見直しなどを行っています。



リスクマネージャー会の様子

リスクマネージャーは、自部署で発生した事象をいち早くキャッチして医療安全対策室と共に対応し、職員に周知しています。また、研修会や学習会を計画・運営し、職員の安全教育の充実を図っています。

その他、全職員を対象に医療安全に関する講演会や学習会、一次救命講習会、KYT（危険予知トレーニング）、院内巡視などを行い、病院全体の安全教育を行っています。



KYTの様子

「ヒヤリ」や「ハッ」としたことも報告することで医療事故の防止につながっています。

医療事故につながる可能性のある問題点を把握し、改善策を講じるため、全職員にインシデント（被害は及ぼさなかったが「ヒヤリ」「ハッ」としたこと）からアクシデント（事故）にかかわる事象まで報告を義務付けています。報告内容はインシデントが大多数ですが、アクシデント防止のため、小さなことでも把握・分析し、再発防止に向けた対策を行うことが大切です。報告された内容は、医療安全対策室やリスクマネージャーが中心となり、事象の大小にかかわらず、分析や各部署の傾向の把握を行い、改善に向けた対策を立てています。

患者さんへのお願い

医療事故を防止するためには、お名前の確認やお薬、検査の内容確認等、患者さんの協力が不可欠です。安全を確保するため、ご協力をお願いします。

つくって元気!

楽笑レシピ



お手軽 秋の低カロリー 栄養バランス食



1人分 510kcal カルシウム236mg 塩2.7g
町田市民病院栄養科：前段、原

材料(4人分) 作り方



<お手軽炊き込みご飯>

米2合、油揚げ2枚、ツナ缶1缶(70g)、人参40g、舞茸40g、A[しょうゆ大さじ2、酒大さじ1、みりん大さじ1]

- ①油揚げはお湯をかけて、油抜きし、細く切る。人参は短冊切り、舞茸は、株元を切り細くほぐしておく。
- ②といた米を炊飯器に入れ、Aの調味料を入れ、普通の水加減まで水を入れる。①の材料とツナ缶を入れ、炊飯器のスイッチを入れる。
- ③炊けたら全体をよく混ぜ出来上がり。

<鶏むね肉とれんこんの炒め煮>

鶏むね肉1枚240g(塩一つまみ、酒大さじ1)、れんこん150g、しめじ50g、小葱40g、油大さじ1.5、酒、みりん、しょうゆ、水各大さじ1

- ①鶏むね肉は一口大にそぎ切りにし、塩と酒で揉んでおく。
- ②れんこんは皮をむき一口大の乱切り、しめじは株元を切り小房に分け、小葱は3~4cmの長さに切る。
- ③熱したフライパンに油を入れ、中火で鶏肉を炒める。表面が白くなったら、れんこん、しめじを入れ炒め、酒、みりん、しょうゆ、水を入れ、蓋をして、2分ほど蒸し煮する。
- ④蓋をとり、小葱を入れる。火をやや強くして、水分を飛ばし味をからめる。お好みでゆずこしょうや豆板醤を少々どうぞ。

<小松菜の酢の物>

小松菜320g、桜えび干12g、酢大さじ2、砂糖小さじ1、塩一つまみ

- ①小松菜は熱湯でゆで、水を絞って3~4cmの長さに切る。
- ②酢と砂糖、塩を混ぜ合わせ、①を加えてよく合わせ、桜えびをのせたら出来上がり。

★桜えびは小皿にのせて、電子レンジで10秒チンすると美味しくなります。

★この一品でカルシウムや葉酸がとれ、バランスアップです!

紹介状をお持ちでない場合は、 2,700円の選定療養費をいただいています。

当院を受診される場合は、かかりつけ医からの紹介状(診療情報提供書)をお持ちください。紹介状をお持ちでない場合は、通常の診療料や初診料に加え、初診に関する選定療養費*(2,700円・税込・保険適用外)をお支払いいただきます。

当院と地域の診療所(かかりつけ医)は役割分担・連携を推進しています。かかりつけ医は初期診療や健康管理などを行うみなさんの身近なお医者さんです。一方、当院は手術や入院治療が必要な高度医療、専門的な検査などを行っています。また、当院の治療で病状が安定した方については、かかりつけ医に紹介させていただき、今後の診療やお薬の処方などをお願いしています。

*初診に関する選定療養費：病院と診療所(かかりつけ医)の機能分担の推進を図る観点から、紹介状をお持ちでなく直接来院された初診の方にご負担いただく費用。

